

# 太宰府の文化財

434

## 特別史跡大野城跡を歩く(尾花地区)

大野城は今から1350年ほど前に、大宰府政庁跡の背後に位置する四王寺山に造られた古代山城で、現在は特別史跡大野城跡として指定されています。この城は標高約410mの四王寺山の全周約8kmにわたって土塁や石塁を張り巡らせており、日本最大級の朝鮮式山城といわれています。

大野城は山城としての機能のほか大宰府の外郭としての役割も担



整備後の園路(土塁上部から)C地区



整備後の園路(土塁下部から)C地区

ました。またのちに山中につくられた四王寺(四王院)では、東方の持国天、南方の増長天、西方の広目天、北方の多聞天という四方を守護する四天王に祈禱する四天王法を行い、国家守護や国内鎮護など宗教拠点としての役割を担いました。また平安時代になると山中に多くの経塚が築かれるなど、ながく聖域とされてきました。江戸時代には、西国三十三カ所観音霊場にあやかり、山中

に観音菩薩の霊場が作られ、昭和初期までは盛んに参拝されていたと伝わっています。現在は市民遺産第15号「四王寺山の三十三石仏」として市民遺産に認定されています。

これらのように大野城跡は古代から現代まで多種多様な歴史が重層的に重なりあいながら存在する貴重な史跡です。

近年、この特別史跡大野城跡内でイノシシなどの獣害により土塁や園路のき損が多発しています。その

ため、令和2年度にこの大野城跡の尾花地区土塁および周辺部の散策路などを整備しました。この事業は令和2年度コロナ対策事業交付金事業(コロナ滅観光ルート四王寺山)の一環として行われたものです。園路には主に散策向けとして史跡保全と歩行に考慮した土系舗装を施しており、園路の外側にはイノシシ対策用の保護シートを張り巡らしました。

史跡地を巡る史跡見学のほか、屋外での健康増進目的でのウォーキングや散歩にもどうぞご利用ください。



特別史跡大野城跡尾花地区整備工事を行った箇所

- A・C地区…法面保護工事
- B・D地区…園路工事
- E地区 ……排水工事

文化財課  
高橋 学

ウォーキングや散歩にもどうぞご利用ください。

